

# 埼玉親善大使として過ごした北欧フィンランド

はばたけ！女性応援奨学金短期コース  
さいたま市立浦和高等学校 3年 菅村美月

私はWYS教育交流日本協会を通して、交換留学生としてフィンランドのヘルシンキに2022年8月から2023年6月までの約10か月間現地のAlppilan lukio高校に通いながら、ホストファミリーのもとで生活をしていました。



交換留学は異文化コミュニケーションを重視したプログラムであり、現地校やホストファミリーとの密接な現地ネットワークを通して、フィンランドと日本、埼玉の生活や文化を比較する良い機会となりました。

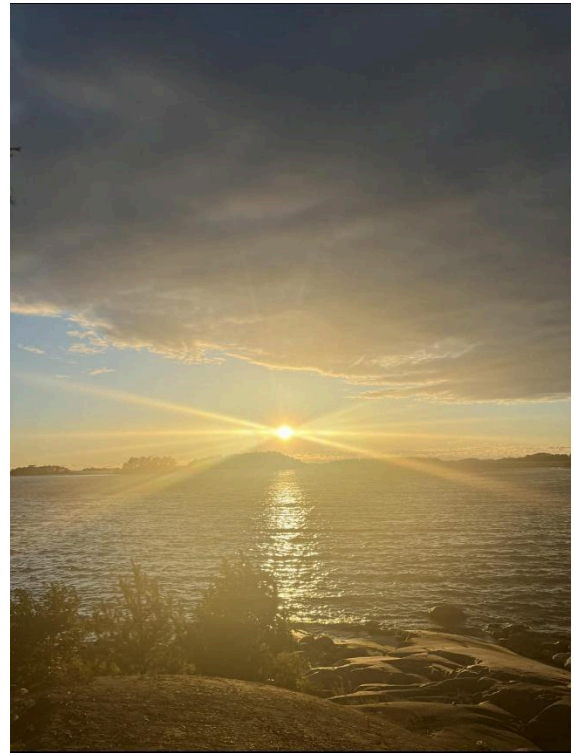
## 1、親善大使としての活動

私は埼玉出身で自己紹介をするときに、“Just north of Tokyo”と紹介する人がとても多いと感じていました。確かに東京は世界中の誰もが知っている大都市でわかりやすい表現ですが、埼玉の魅力を伝える大使として大都市との相対評価ではなく、埼玉そのものの魅力を知ってほしいと感じるようになりました。そのため、私は自己紹介の際に地元や学校のお気に入りポイントや、フィンランドと似ているところを伝えるように心がけていました。するとフィンランド語で“サタマ”という言葉があることを知り、サタマは港という意味だと教えてもらいました。

それを知ってからは埼玉にはサタマはないけどいいところがたくさんあるよ、と紹介するようになりました。東京や京都しか知らなかった現地の人が、私や似た言葉を通して親近感のわく地が変わったと言ってくれたときがとてもうれしい瞬間でした。

他にも学校でのポスターの掲示や、日本食パーティーなどを通して、今までのステレオタイプから一歩進んだ日本、埼玉を共有することができたと感じています。

## 2、現地生活を通して学んだこと



私はフィンランドのワークライフバランスや、自然と共生したライフスタイルが日本にはない素敵なおとろだと感じました。

私のホストファミリーはバルト海に島のコテージをもっていて、週末になると車を3時間ほど走らせて訪れました。コテージには水道も電気もありません。そのため井戸水を汲んだり、サウナを薪をくべて温めたり、太陽光発電をしたりしながら生活をしました。

始めのころは不便だと感じることもありましたが、次第にゆったりとした開放的な時間に魅力を感じるようになりました。この体験は一種のカルチャーショックであり、また一方で日本での生活習慣や文化を見直すきっかけともなりました。

またフィンランドは高緯度に位置するため、長くて暗い冬が有名です。南に位置するヘルシンキでさえ、日照時間が5時間に満たない日もありました。始めはそのことになれずに、気分の浮き沈みを感じることもありましたが、クリスマスの本場でサンタさんの住むラップランドを訪れたり、冬の間しかできないスキーをしたり、季節に応じた娯楽で楽しく、あっという間に過ごすことができました。季節間のコントラストがあるからこそ、両方をどのように楽しむのか、フィンランド人の考え方に触れることができました。

学校生活では五学期制の制度を生かして、多種多様な授業を履修しました。

特に気候変動や、世界経済など将来学びたいことに関する継続的な授業構成が印象的で、ディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブな授業を通して、同世代の他の国の人々はどのように社会課題に向き合っているのかを体系的に学ぶ事ができました。

日本にいたときよりも多様なバックグラウンドをもった友人ができたことで、多文化への視野を広げることもできました。

### 3. 私自身の探求活動と今後



現地校で勉強もしながら、主にジャーナリズムの自由度について探求を行いました。日本のマスメディアの報道姿勢や、既存の法律、制度に対する疑問から、ジャーナリズム先進国といわれるフィンランドとの比較、検証をしたいと感じたためです。具体的には現地の学生記者団体に所属し、主にテレビ番組のディレクティングを行いました。(写真は国会議事堂にて撮影を行っているときの写真です。)

活動言語は基本フィンランド語のため、はじめはついていくことに必死でしたが、日本やアジアに興味があると声をかけてくれた子が通訳をしてくれたり、留学生であることを理解してくれたメンバーの支えもあり、自分にできること(定例ミーティングで案を発表してみる等)から始めることができました。結果言語学習の支えにもなりました。

実際の報道現場でしか学ぶことができないことを吸収することができ、実際にインタビューなどを通して、日本の制度との比較を自主研究する事ができました。

今後はフィンランドでの探究経験を生かしながら、自分の将来の夢である国際的に活躍できるジャーナリストまた、ドキュメンタリー作品の教育意義の普及に向けて、専門性のある大学に進学し、有言実行できる力と経験を大切に活動していきたいと思っています。